

❖ 講演会・研究セミナー ❖

仏教史・真宗史研究班
「近現代アジアにおける仏教の所在と社会的役割」
大谷光瑞の「仏教・真宗」論と社会的活動

2022 年 7 月 20 日 (水) 13:30～15:00

オンライン開催 (Google Meet)



❖ 概 要 ❖

2022 年 7 月 20 日（水）、常設研究班仏教史・真宗史研究班主催の研究プロジェクト「近現代アジアにおける仏教の所在と社会的役割」の一環として、赤松徹眞氏（本願寺史料研究所所長、龍谷大学名誉教授）を講師に招き研究セミナーが開催された。赤松氏は「大谷光瑞の「仏教・真宗」論と社会的活動」と題して研究報告を行った。大谷光瑞について、赤松氏は「大谷光瑞論（Ⅰ）」（『龍谷史壇』第 128 号、2008・3）、「大谷光瑞の「満州国」論から「東亜共栄圏」論—大谷の仏教・真宗論の立場との関係—」（『仏教史研究』第 58 号、2020・7）などを執筆してきた。今回の報告はこれら研究の延長として位置付けられる。中西直樹氏（龍谷大学文学部教授）の司会の下、研究報告に続き、参加者全員での討論が行われた。

講 演 者： 赤松 徹眞 氏（本願寺史料研究所 所長、龍谷大学 名誉教授）



赤松氏は、まず年表をもって「大谷光瑞（第二十代鏡如）の教団継承と施策」を概観し、

取り分け、地方行政関係に関わる人々への対応について詳説した。次に光寿会の結成事情、またその「宣言」や規則、機関誌『大乘』の発刊などを取り上げ、「大谷光瑞の「仏教・真宗」論」について紹介した。大谷光瑞が著書の『見真大師』において仏教・真宗理解および本願寺教団のありようを厳しく指摘し、批判的言説を展開したとする。ついで、大谷光瑞の「社会的活動」として、光瑞会を組織して、日本・中国を含む国際状況や政治社会への認識・見解を講演などで明らかにして、政界・実業界・軍人などに影響力を及ぼしたことを論じた。最後に、「大谷光瑞の戦敗体験、社会的活動の破綻」において、敗戦後、産業復興を提唱する大谷光瑞の行動は、「平和日本の再建」を新たな俗諦として、「ただ仏法に生きるのみである」を真谛とする真俗二諦説の真宗理解に基づく社会的活動の性格が顕在化したものと推測する。

以上の四つの方面から、赤松氏は大谷光瑞の思想の歴史的な性格について検討した。